

グローバル社会でのプレゼンテーション能力の育成

NPO法人民族フォーラム理事 皮籠石 成久



1 はじめに

グローバル化の中で日本人が欧米人に比べて劣る能力の一つに「プレゼンテーション能力」があげられる。アジアでも顕著な例がある。数年前、国際理解教育関東ブロック群馬大会に参加。中国の上海日本人学校に派遣された先生の報告があった。現地校との授業見学と先生方との交流を行った際に、現地校の子供たちが素晴らしいプレゼンをしていた。詰め込み授業のイメージがある中国の学校教育の中で不思議に思い現地校の先生に尋ねると何とプレゼン専門の先生がいて発達段階に応じて体系的に指導しているとの回答を得た。日本の教育は果たしてプレゼン能力を小学校から中学校までどのように育てているか疑問である。

グローバル化が進む中で、外国の方々と対等に自分の考えを主張し説得力のあるプレゼンができる児童生徒をどう育てていくか以下に述べていきたい。

2 プレゼンテーション能力に必要な語彙

プレゼンテーションとは、「発想・課題の抽出～情報収集・論理的思考～表現」の一連の作業である。

プレゼンに必要な語彙は次の通りである。

- ・コンプライアンス (法令順守)
- ・ディスクロージャ (情報公開)
- ・コンセプト (概念)
- ・エビデンス (根拠)
- ・パッション (情熱)



プレゼンを行う上でとても大切な事は、

「誰に」⇒ (情報を伝えたい人)

「何を」⇒ (伝えたいメッセージ)

「どう伝えるか」⇒ (表現方法や演出) であり、行動を起こさせるきっかけを創り出すものが明確である事。

3 学校教育でのプレゼンテーション

「課題の提示」～「調べ学習」～「まとめ」～「発表」

小学校・中学校・高校どの段階でも、アナログ環境だと、「恥ずかしい」「自信が無い」「どうしていいかわからない」など自分の意見や考えを表現しにくい。

《アナログ環境》だと、表現力に差が出る。

「課題の提示」=プリント配付か板書

「調べ学習」=図書や資料プリント

「まとめ」=まとめシートかホワイトボードなど

「発表」=シートの提出か板書

《ICT環境》だと、「情報収集能力」「思考力・判断力」「表現力」など効果的な学びが実現できる。

「課題の提示」=児童・生徒用端末に一斉配信

「調べ学習」=インターネット (発達段階に応じて分かりやすいレベルから高難度の資料まであらゆる情報にアクセスできる)

「まとめ」=プレゼンテーションアプリなどを使う

「発表」=プロジェクターや大型TVに映写または児童・生徒用端末にそれぞれ表示



JICA東京埼玉デスク 矢田部建佑氏による「SDGsについて学ぼう」の小学校の出前授業風景

4 終わりに

プレゼンテーション能力は、コミュニケーション能力の中の大事な能力である。新学習指導要領で知、徳、体にわたる「生きる力」を子供たちに育むために「何を学ぶのか」各教科等を学ぶ意義を共有、授業の創意工夫等が示されている。特に授業改善の推進として「主体的、対話的で深い学び」の実現。アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善が求められている。プレゼン能力を高めることによって、①パワーポイントや資料などを使って物事を端的に視覚的に伝える能力②自信を持って人に意見を伝えられる③物事を順序立てて人に伝える能力が身につくのである。今後、学校現場での発達段階に応じた体系的なプレゼン指導を期待したいと思う。

参考図書等:『情報活用型プロジェクト学習ガイドブック』明治図書、『アクティブ・ラーニング「深い学び」実践の手引き』教育開発研究所、インターネット